

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	南 博信
-----------	------

## 1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	b
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>COVID-19下で活動が制限される中、テレビ会議システムを利用しコミュニケーションの体制は取れており、これを活用するなどして九州大学・大分大学合同カンファレンス、九州がんプロ全体研修会、九州大学病院がんセミナー、小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演、全体の研修会など多くのセミナー等を実施できている点は評価できる。</p> <p>九州がんプロ全体としては、教育コースの当初受入目標は達成でき、一部のコースでは目標を上回る学生を受入れている点は評価できるが、一方で受入目標に届かなかったコースや入学者がいなかったコースもあり、大学間・コース間での差が大きい。</p> <p>インテンシブコースでは、受入目標を大きく上回る受講生を確保できている点はすばらしい。</p> <p>ゲノム基盤臨床腫瘍学コースに11名を受け入れているががん薬物療法専門医の育成につながるような指導に期待したい。パネル検査のデータベース検索やアノテーションはいずれはAIが実施することになるので、データではなくがん患者を扱う腫瘍内科医の育成が必要である。</p> <p>3拠点が緊密に連携しているとのことであるが、具体的にどのような連携がどのような成果につながっているのかが見えない。</p> <p>南部エリア内の連携として薬剤師インテンシブコースを開講しているようであるが、医師の育成が弱いようである。南部エリアだけではなく、九州全体で考える必要があるように思われる。</p> <p>九州大学では学生を目標以上の受け入れているが、エリアの拠点でありながら学生を確保できていない大学があるなど、大学間の学生の受け入れ数や活動内容に依然として差は大きい。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	学生も確保し積極的にセミナー等を実施している。 他大学の活動向上にも配慮が欲しい。
福岡大学	婦人科医の大学院生は確保できているが、腫瘍内科医や放射線腫瘍医の育成の実績がみえない
久留米大学	色々情報発信の努力はしているようだが、大学院への入学者がおらず、さらなる対策が求められる。
佐賀大学	ある程度の学生を確保し、がん薬物療法専門医、血液専門医、遺伝専門医の資格を取得し、あるいは取得させようとしている点が評価できる。
長崎大学	ゲノム医療に取り組んでいる実績が報告されている。 学生も確保できている
熊本大学	学生を確保できているようだが、がん薬物療法専門医・放射線腫瘍専門医の資格取得者がいないのは大きな問題である。
大分大学	医師の大学院生を確保できている
宮崎大学	看護のコースは学生も確保し活発に活動しているようであるが、医師の育成が課題である。
鹿児島大学	R2年度の入学者はいなかったが、在籍者への教育を継続している。拠点の一つとして新規入学者を確保し継続的な教育に期待したい。ゲノム医療に関してはがんゲノム医療拠点病院としての活動が中心である。
琉球大学	2019年度に1名の学生の入学を得ているが、学生の確保に努力する必要がある。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	千堂 年昭
-----------	-------

## 1. 3年間における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	a
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p>広範なエリアにわたる九州地区であるが、10年にわたる継続的な連携を基盤として実質的な成果が上がっている。目標達成のために、拠点内の3つのエリア（北部、西部、南部）にそれぞれ幹事施設（九州大学、長崎大学、鹿児島大学）が中核となり、エリアごとで地域特性を活かし展開していることが伺える。全体的に、10大学とも社会課題や人材需要を踏まえた特色ある教育プログラム、教育の方策のもと取り組まれている。社会情勢を踏まえ、「九州がんプロ全体講習会」はオンライン形式で開催されたことにより、多数の参加とともに、充実したプログラムもあり、高評価を得たことは今後も本方式の継続を希望したい。</p> <p>本年度、教育コンテンツの共有化のためのeラーニングはさらに充実している。「eラーニング支援室」の体制整備が整っていることが窺える。今後も全国eラーニングクラウドを利用することにより、多職種のがん専門医療人にとっての、新ニーズに求められる専門領域の知識や最新情報の提供のためにコンテンツ拡大が期待できる。</p> <p>来年度に向けて改善すべき点としては、教育コースによっては受け入れ目標を大きく上回っている一方で、届いていないコースも見られる。ニーズ等含めて、検証の上、具体的な改善策の提示が求められる。あわせて、地域差により学生確保に課題をもつ大学があるが、他大学の「グッドプラクティス」を共有することにより、広報活動を通して研修医や学部学生のがん医療への興味を高めてほしい。</p> <p>全体的に取り組みには順調に進捗していると評価する。今後の発展に向けて、各取り組みの検証によるフィードバックをもとに必要な応じた改善を進めて欲しい。九州内の多様な新ニーズに対応する多くのがん専門医療人の養成が必要とされている。今後は、さらに、がん患者の求める全人的医療を実践するためには、各専門職種が高度な技術と知識を持った上で、チームとして連携し、がん診療を提供する多職種連携教育が重要であると思われる。本プロジェクトの継続的な発展を期待したい。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	がんゲノム医療、小児・希少がんに関する教育プログラムが充実しています。特にがんゲノム医療講習会は質的・量的にも充実しています。がん研究薬剤師コース博士課程は先進的な研究環境ならびに研究者を有していることから、さらに広報活動による大学院生の受け入れ数増加が望まれます。
福岡大学	多職種での人材育成プログラムは充実している。一方で将来を担える人材育成のために、広報活動等を通して、大学院生の確保に努めて欲しい。北部エリア拠点の九州大学との更なる連携が望まれる。
久留米大学	大学の特徴を活かした教育プログラムが実践されています。特にがん看護専門看護師の育成には成果がみられます。全体を統括するマネジメント部門の設置と北部エリア内での医療機関との連携が望まれます。
佐賀大学	達成目標ごとに、特色ある取り組みが実施されています。引き続き大学の特性に応じた事業を推進して欲しいと思います。今後は地域がん診療拠点病院との連携強化が重要と思われる。大学院進学者が見込めないのが現状ですが、インテンシブコースの充実に努めていただくことを希望します。
長崎大学	がんプロ全国e-ラーニングクラウドを活用した取り組みが進んでいます。大学院生の受け入れも目標達成していることは評価できます。今後ともweb会議システムの活用によりさらに新規受け入れ人数の増加が見込めます。引き続き、離島・僻地実習や在宅医療実習の教育プログラムは特徴的であり継続化を望みます。
熊本大学	多くのコース生が専門医資格を取得しており、今後、研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースの設置による大学院生数の目標はほぼ達成できていると思います。今後もオンライン形式を充実させ、新規受け入れ人数を維持されることを期待します。
大分大学	多様なニーズに貢献できるがん看護専門看護師の育成に成果がみられます。オンライン環境が整備され、各養成コースによる人材育成が進展することを望みます。
宮崎大学	がん看護専門看護師コースにおける講演会の参加者が多く、多職種にわたっていることは評価できます。今後も引き続き、がん看護専門看護師の養成を基盤にして多職種人材養成の推進を期待します。
鹿児島大学	がんゲノム医療に関する教育体制は充実しています。新型コロナウイルス感染症の収束に向けてWEB研修会の充実とゲノム医療実習の開催が望まれます。薬剤師のためのがん薬物療法セミナーも参加者拡大に向けて引き続きお願いしたい。
琉球大学	特色ある緩和ケアエキスパートナース養成コースにおける先進的な取り組みは成果が上がっています。地域特有の希少がん疾患の研究成果は期待しております。今後、がん看護専門看護師養成のプログラムの充実とホームページ上での広報活動により、大学院コース、インテンシブコースへの受け入れを積極的に進めていただきたい。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートに記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	真嶋朋子
-----------	------

## 1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容を記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	a
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	b
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）
<p><b>評価できる点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に自己評価されており、課題が明確になっている。</li> <li>・教育プログラム・コース（インテンシブ以外）受け入れ目標が、68名であり、R2の受け入れ実績が56名と少ないが、ゲノム基盤先端臨床腫瘍コースは、目標を上回っており、評価できる。</li> <li>・新ニーズに対応するがん医療人養成インテンシブコースについて受け入れ目標20名のところ、受け入れ実績91名と大幅に増え評価できる。新しいe-learningの収録（ゲノム、小児・AYA 希少がん）の収録も順調に進められている。</li> <li>・九州がんプロ学生、修了生に対し、「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医症例実績報告書」の作成支援を実施し、丁寧に症例の査読や指導が行われ、合格に導いており、専門医の資格取得に尽力されていることがうかがえる。</li> <li>・拠点内の連携のために3地域に分けて活動されていることは確認できた。</li> <li>・看護系については、もともとの目標数が少ないが、宮崎大学のがん看護専門看護師養成コースは目標に到達しており、さらなるリクルートが期待される。琉球大学が沖縄県立看護大学との連携を図られていることから、がんプロの成果が国立大学以外の大学にも広がっていることが期待される。</li> <li>・九州大学の事務局スタッフによるSNSの情報収集、発信は新しい方法であり、他のがんプロチームの参考になると評価する。</li> <li>・各種講演会等を通じて多くの専門職、市民を巻き込んだ研修を行っており、コロナ下の状況にありながら、成果を出していると評価する。</li> </ul> <p><b>来年度に向けて改善すべきこと</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に多職種人材育成は各職種ごとに行われており、他のがんプロ拠点に比べて多職種の連携教育の部分が見えにくく、今後の課題になるのではないかと考える。</li> <li>・ホームページなど多くの情報を発信されているが、評価をするうえで、目標との照合が困難。後半の方の書類には目標値の記載があるが、それに合わせた実情を評価が望まれる。ホームページの内容が多くなりすぎているように思うので、情報の体系化を図る工夫が必要ではないか</li> </ul>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

次年度以降における事業改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントを記入ください。

コメント欄（評価できる点、来年度に向けて改善すべき点など）	
九州大学	教育プログラム・コースの受け入れにおいて本がんプロを牽引している。医学部物理士のコースは受け入れが目標を超えており、本がんプロ御口拠点の重要なコースであり、必要があることがうかがえる。事務局の情報発信力も優れている。ホームページにおいては、情報が多くなっているため、系統的に情報を確認できるような工夫が必要。（これは全体に対する意見にも記載させていただきました）
福岡大学	コロナ下で、当初計画が実行できていないが、高齢者のがんリハビリテーションを、リハビリ技師、栄養士との共同でシステム構築されているところは評価できる。さらにエビデンスを集積し、他の職種も含むがんリハビリテーションプログラムの評価研究が行われることを期待する。
久留米大学	達成目標2、3についてがん看護専門看護師のトランジショナルケア（入院～地域、治療期から緩和ケア終末期）までを想定した教育を行っており、ライフステージの異なる、多様なニーズを持つがん患者を包括的にケアする必要性について情報発信できている。課題としては入学者のリクルートであり、遠隔教育など工夫し、より幅広い地域からの学生を取り込む、または看護師への教育を行うことが望まれる。
佐賀大学	個別の患者対応について、他の診療連携拠点病院との連携を行うことができている。より包括的で効果的な緩和ケアを提供するための緩和ケアパスについても特徴的な考え方として評価できる。更に具体的な内容を構築し、多職種によるピアレビューを受けることが必要である。大学院生のがんプロのリクルートについて課題を示されている。大学院入学者のみでなく現任教育を中心にインテンシブコースなどを提供できるよう次年度の目標に加えてはと思う。
長崎大学	長崎大学として、達成目標1、2、3が達成されており、ゲノム、多職種連携、在宅医療など幅広い内容の教育が展開されていることが評価できる。課題として、西部地区佐賀大や宮崎大学とどのような連携をされたか、もう少し具体的に示し、評価をしていただきたい。目標2について多職種連携の学習を推進されていることが分かったが、具体的にどのような内容を達成したのか明示していただきたい。
熊本大学	新規コース受け入れ数やがん薬物療法セミナーの開催、消化器がんに関するセミナーなど、成果が上がっている、特に評価できる点としてはオンラインセミナーを県外の研究者医療関係者を対象に行ったことであり、評価ができる。医師薬剤師以外の連携について触れられておらず、他の職種を含む連携について他の大学、医療機関等へ教育、情報提供が必要と考える。
大分大学	がん専門看護師の教育に力を入れ、教育展開、修了生の輩出などが今後期待される。がんプロ1、2期の修了生ががん診療連携拠点病院で、実習指導をされるなど、がんプロの成果が継続して表れている。ゲノム医療の基礎研究臨床研究の教育の対象者は、教育の波及効果などの評価が見えにくいので、目標を明確にしたほうが良い。
宮崎大学	医学系のコース生の受け入れはないものの、がんセミナーの総論各論の開催、により達成目標1、2をカバーしており、多職種及び医療関係者、学生へ提供できたことは評価できる。特にがん看護専門看護師の教育については、力を入れて行っており、準備期間であったと思われるが、今後の修了生の活躍が期待される。また、評価できる点はがん看護研究会のホームページ上でがんプロ講演会を掲載したり、大学のポータルに案内を掲示して参加者を集めるなど、幅広い情報公開を行っているところである。今後も引き続き教育や研修会の内容を医療施設、地域、周囲の診療連携拠点病院に提供されることが期待される。
鹿児島大学	「鹿児島県がん・生殖医療ネットワーク」への協力によりAYA世代のがん患者への支援を多職種で行うための連携が始まっており、本領域の多職種連携の必要性が非常に大きいことから、さらなる発展が期待される。また、目標3に対して外国における先進事例を意識的に収集しておられ、評価できる。鹿児島大学は南部エリアの宮崎、琉球大学と連携を行う大学であるため、この連携についての取り組みが弱いように見受けられるため、次年度以降の課題の1つに加えていただきたい。
琉球大学	沖縄県立大学との単位互換など看護系大学の先駆的取り組みであり、評価できる。緩和ケアエキスパートナース養成コースでは目標を達成しており、評価できる。今後は引き続き学生の受け入れを拡大していくことが課題である。